



## 喜多登

## 結納のはなし

今では執り行われる事が珍しくなりつつある婚約の儀式である「結納」。一昔前を思えばいまの状況は驚く他ありません。

さてそんな結納ですが、その始まりは『日本書紀』によれば、第十七代天皇であらせられる履中天皇さまが、即位前に黒媛というお姫さまに納采の儀(結納の事)をした事が始まりとされます。

実はこの話には続きがあり、この納采の後、黒媛に横恋慕した実の弟である住吉仲皇子が、黒媛を騙して手篋めにした上、皇位を奪わんと履中天皇さまの殺害を企み、大嘗祭<sup>※①</sup>の後、に皇居である難波宮に火を放つという事件が発生します。(※②)

しかし、履中天皇さまは間一髪難を逃れて、もうひとりの弟、瑞齒別尊(後の反正天皇さま)と協力して、逆に住吉仲皇子を討ち倒し、無事に即位されます。

そして騙されたとはいえ、手篋めにされてしまった黒媛は、婚約解消になってしまいうなとところを、履中天皇さまは何も問い詰める事もなく、そのまま黒媛を皇后に立て、そして後年、二人の間には皇子が誕生するというお話です。

古代、結納の始まりには、大阪を舞台にしたそんなドラマチックな物語があった事に驚くと共に、結納とはまさに結びつきを納めるものであるという事を皇室の歴史は語っています。

※① 即位後最初の新嘗祭の事。現在は十一月二十三日に行われる

※② 大嘗祭の日に襲撃したというのは『古事記』の記述

## 七五三のご案内

当宮では七五三のご祈禱を受付けております。まずはお電話でご予約下さい。

※七五三は数え年(満年齢に一歳足す)で計算します。

- ・三歳 平成二十六年生(午) 女兒(又は男児)
- ・五歳 平成二十四年生(辰) 男児
- ・七歳 平成二十二年生(寅) 女兒

御本社 ○六一六三六一―二八八七  
御旅社 ○六一六三七―一五八六

※茶屋町の御旅社においては、少人数親族含め五名までであればお受け付け出来ます。

## 三笠宮崇仁親王殿下薨去

先月二十七日。大正天皇さまの第四皇子であられた三笠宮崇仁親王殿下が薨去されました。崇仁親王殿下は大正四年(一九一五)のお生まれで、現役皇族としては史上最高齢の百歳でした。まさに皇室の長老であり、今上陛下の良き相談相手としても重きをなして来られました。

殿下はトルコなどの古代オリエント文明への造詣が深く、両国の橋渡し役としてこれまでご活動されてこられ、現在、日本とトルコの関係が非常に良好であるのは、殿下の存在が大きかったともいわれています。

また戦後すぐの頃、ブラジルへ渡った日本人移民の中で派閥争いがありました。昭和三十三年(一九五八)に、ブラジル移民五十年の記念に、殿下がブラジルにお渡りになるという事で、両派は急遽和解し、共に殿下を迎えた事から、協力の大切さを知り、南米における日系人の高い評価へとも繋がっていったともいわれます。

ただ悔やまれる事に、三笠宮家は男性皇族が既に皆薨去されておられ、宮家を継がれる方がおられません。今後はお孫さまにあたる彬子女王殿下を中心に殿下のご意志を継いでいかれるものと拝されます。

ここに謹んで哀悼の意を表する次第であります。

## 神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、  
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

